

## 平成20年度「市政懇話会」第1回地域コミュニティの充実と強化部会

日 時：平成20年5月19日（月）13：30～15：30

場 所：鳥取市役所本庁舎4階第4会議室

出席者：【委員】八村輝夫部会長、吉田茅穂子副部会長、池長綾子委員、川口博子委員、須崎俊雄委員、吉村あけみ委員  
坂本匡範委員（欠席）

【鳥取市】林副市長、安本コミュニティ支援室長

【事務局】枡谷

○部会長）本日はお忙しいところ、「地域コミュニティの充実と強化」部会ということでお集まりいただき、感謝申し上げます。19年度は、公民館の問題であるとか、あるいは防災の問題であるとか、いろいろと協議をいただいた。今日は、新しいテーマを議論いただき、昨年度の議論と併せて、全体会で報告することになっている。そのため、まずはこれまでの部会の議論の総括をしていただきたい。

### ●資料1について事務局より説明

○部会長）公民館は、従来は生涯学習施設であったが、地域コミュニティの拠点施設となり、活動の幅を広げているわけであるが、現在の公民館活動に関し、市の方で課題だと考えていることはあるか。また、若者に関しては何かあるか。

○林副市長）今までは、公民館は生涯学習の拠点であるというのが非常に大きな要素であったが、実際には地域のコミュニティの拠点的な役割も果たしていて、今回、その地域のコミュニティとしての位置づけを明確にした。こちらの方から特にお願いしているのは、地域の中のいろいろな構成団体、自治会長であったり、女性団体の長であったり、自主防災会であったり、いろんな方々で組織するまちづくり協議会を作ってください。そして、地域の中の課題をみんなで話し合ってもらって、市の方の援助が必要であれば市の方の援助も考えていくと。まちづくり協議会を設立して議論していくにあたっては、市の方もコミュニティ支援室の方が中心になって、庁内で280人ぐらいの職員からなるコミュニティ支援チームというものを作って、まちづくり協議会の立ち上げから支援をしたり、話し合いをしたりしていく予定である。これから段取りをこれから進めようとしているところであり、これからいろんな課題がでてくると思う。ただ、今まで地域へ部長以上が出かけて行く地域づくり懇談会というものをやっているが、その時に出てくるのが、地域の中が非常に高齢化していて、役を頼んでも役をしてくださる人が非常に少なくなった。お願いしても1年で変わってしまい、継続して課題を解決していくところまでにはいかないんだと。それからメンバーを選ぶのが非常に難しく、また、一人がいろんな役をしないといけないので、非常に忙しい。少子高齢化の影響もあって、若い人も忙しくて、かかわってこれないので、どうしても中高年の人が中心となってしまう。そのあたりが非常に大変なんだという話はある。そのあたりも行政の方で支援できたらと考えている。

○安本コミュニティ支援室長）コミュニティ支援室は、鳥取市の協働のまちづくりをさらに進めていくために、協働推進課の中に設けられた部署で、地区公民館を担当すると

ともに、自治連の事務局も担当している。そのほか、先ほどでたが、職員のコミュニティ支援チーム（CST）の取りまとめについても担当している。

青年団に関して補足説明すると、合併する前は、鳥取地域には青年団という活動は無かった。新市域においては、国府と河原。町村合併前にはあったところも段々衰退していった、実際にはここだけの活動となっている。担当するのは今でも生涯学習課で、青年団の育成などを行っている。青年団の活動については、職員が一緒になって事務調整とか事業計画策定の話し合いなどをしてきたが、みんなで集まる機会は設けていなかった。前回意見をいただき、それを機に設けさせてもらった。

- 委員) 老人クラブや子ども会の活動はあるが、どれも一緒に活動することがない。また、老人クラブと子ども会との間の中間的なものは、すごくたくさんあるのだが、なかなか動きがとれていない。それぞれに所属はしておられるが、地域としてのまとまり方が薄いのではないかと感じる。個々の活動はあっても、次へのステップがそこで途切れてしまう。そのあたりは地域の課題か。
- 安本コミュニティ支援室長) まちづくり協議会については、自治会があるのになぜつくらなければならないかという質問をよく受ける。ただ、個別の団体ごとには、それぞれ目標を掲げて活動しているが、それぞれの団体がやっていることというのは、情報共有ができていない。それを、それぞれが情報を共有しながら、地域を活性化するという目標を立てて、いろんな主体が活動するようなことができるといいと思う。
- 委員) 公民館では、体育や文化活動についてそれぞれ部長がいるが、それなりの活動をされている場合とされていない場合がある。行政の方で、どのようなことをすればよいかを研修したり、指導していただいたりして欲しい。実質的に活動に参加できる方を行政は考えて欲しい。
- 安本室長) 各団体も自主的な団体で任意の組織であり、行政がかかわれる部分も様々である。ただ、公民館を核として利用していただいているので、公民館の生涯学習事業、例えば、地域を見つめ直す講座などを活用していただければ、取り組みの方法もまた深まっていくのではないかと考えている。
- 委員) 自分の地区の公民館では、公民館便りを毎月だされている。ただ、実際にどのような職員さんがいるのかよく分からない。館長1人、嘱託1人、正職員1人の3人体制であると聞いているが。
- 安本室長) 3人は、主事2人、主任1人。館長は特別職なので週12時間の勤務となる。職員はローテーションで勤務しているので、訪問する時間帯によっては、いつも同じ人が対応され、1人しかいないような錯覚をしてしまうかもしれない。館長含めて週1回程度は、4人出勤して業務の打合せができるようにしている。新市域については、3人の体制になっているところも有り、まちづくり協議会がつくられることによって、人も必要になるので、1人増員するというようなことを考えている。
- 委員) 公民館の利用はどの地域から来ても受け入れるのが基本だと思っている。ある公民館は、その地域以外の人利用は困ると言っているそうだが。
- 安本室長) 地区公民館は小学校区の単位で設置され、住民のための地区公民館となっている。地域の人からいくらか運営費を負担していただきながら、公民館を運営しているので、公民館によっては、地域の人利用を優先しているのかもしれない。
- 委員) 今議論しているのは半年以上昔の話である。市政懇話会の部会は、今のようなプ

ログラムでは、実質的な議論ができない。主要な議論を忘れてしまっている。まちづくり協議会について激論をかわした記憶はあるが、今までの議論を取りまとめた資料は、枝葉の話がごっそり抜け落ちている。間隔が空きすぎている。半年での集中議論とするか、せめて1月に1回は開催して欲しい。

○部会長) 次の議題に移りたい。自主防災について検討した。

○委員) 中国やミャンマーにも、このような防災組織はあるのだろうか。

○林副市長) この間から、中国政府が神戸の震災における自助・共助に学べというようなことを言っていて、そのようなところを見ると、中国は防災組織があるようなイメージだったが、意外とないのかなという印象をもった。市民組織というものが主体的にはないのかもしれない。

○委員) 防災組織については、向こう3軒両隣が大事である。

○委員) たくさん料理ができた時に隣へおすそ分けすることもなくなっている。今はお隣が一人でおられたとしても、あまり声をかけない。そういう状態でどうしておられるのかということで、民生委員さんの単位で見守りをやっておられるが、民生委員さんの話でも、個人情報の関係で非常にやりにくいということもでてくる。独り暮らしの方の支援も非常に難しい。

○委員) 防災の問題は、まちづくり協議会の大きなテーマである。

○委員) 自治会組織もそれに向けて試行錯誤しながら活動を行っているところ。

○委員) 町内会の総会の際の委任状も、今では一切書かれない方がいる。そうすると、その家に何人住んでいるのかさえ分からない。

○委員) ゴミの問題も本当に無責任になっている。古いゴミ袋で出された方があり、その人に持っていったところ、つき返されたことを怒っていたことがあった。コミュニケーションがいかにとれていないかという現状がある。このような人間関係の形成は、行政にはできない。サポートするのは地域住民である。

○委員) 本部会の目的は地域コミュニティがどれだけ大切かを考えることである。それには、地域のリーダーと人づくりが重要である。公民館で人づくり事業というものをやっているようだが、中身がよく分からない。

○委員) 一人一人が心を開くことができれば簡単である。ただ、心を開こうとしても開けない社会状況ができていく。

○部会長) リーダーづくりについて、市の方で何かあるか。

○安本室長) 人づくり事業については、人材活用事業というものを生涯学習課でもっていて、公民館の区域の中で、ものづくりなどでいろんな技能を持ち、指導者の立場でできる人を登録して、一冊の名簿を作り、各公民館で活用してもらっている。それから生涯学習の事業を毎年繰り返し行っている。今は全国的にも団塊の世代の方が何かやりたいという気持ちがあるので、公民館の事業で勉強してもらって、それからリーダーになっていただく。そういうようなことも生涯学習課としては必要ではないかと考えている。団塊の世代に対する生涯学習事業の必要性について3月議会でも質問があり、そのような考え方を答弁した。具体的には、深い生涯学習の事業を何度か受けてもらって、さらに自分が興味ある分野について、究極は本でも書けるようなことが必

要ではないかということであったが、本市では今までそこまでのニーズはなかった。まずは、公民館の利用は女性が主なので、男性の利用を増やすべきかなと思う。男女共同参画の関係で、男性向けの料理教室などを行っているが、それ以外の事業はあまりしない。事業をどうしていくかは、公民館ごとに公民館運営委員会があり、そこで協議しながら公民館ごとの考えでやっているが、人材育成事業というのもテーマに入ればなど考えている。

○委員) 青年団体指導者研修というのは、もう始まっているのか。

○安本室長) 青年団体のリーダーの育成は以前からあり、今もやっている。

○委員) 青年団は一部の地域のみか。

○安本室長) 鳥取市でそれぞれの青年団を作り上げるというのは、婦人会、子ども会でさえなくなっている時代なので難しい。今ある団体がリーダーになって呼びかけることで、スポーツ大会でもでき始めれば将来的にいいのかなと思うが。

○委員) 町内で運動会をやっても出席者は0である。そんなこともあって、まずはあいさつから始めている。知らない方でもすれ違ったら「おはよう」とか。大人同士で始めている。

○委員) 基本はあいさつ。顔がゆるみ、心がゆるむ。

○部会長) 地域コミュニティを考える上では、隣の人が分からないのが問題

○委員) 夫が副区長をやっており、その活動を見ているが、徐々に自然の成り行きの中で地域に溶け込んでいっている。副区長という関係上、区長のサポート役で、何かあったら呼ばれたりして、いろんなことをやっていくようになった。年代的にも50代後半になったので、ウォーキングや山登りをやっている。そういうのを見ていると、男性は集団で活動しないという感じがする。何人か集まって何かするという事はあまりしない。そのあたりを、いかに団体に働きかけていくか。団体に働きかけて、活動が広がっていくといい流れになるのではないか。

また、草取りのボランティアをしていたことがあったが、草刈をみんなでやって、その後で飲んだり食べたり、楽しいことをすると地域の輪ができるんだなあと感じた。そして、そのような輪が広がっている地域では少しずつリーダーも育っているような気がする。楽しむということが基本である。楽しみが何かあれば共感する人も集まってくるのかなと感じている。

○部会長) 一斉清掃の話であるが、自分の住んでいるところは清掃するところがない。今までは一斉清掃だということは分かっているが、一斉にやりましょうということはない。町内会長さんが代わって、そうはいっても自分の家の前のことだけでも皆でしましょうということで、やり始めた。そういう具合にいろんな機会をつくるのは大事なことである。廃品回収もそんな形で始めた。町内には小学生も1人か2人しかおらず、出てくる人は2年程前は私が一番若い方だった。が最近若くも出てくるようになった。やはり続けていかないといけない。

また、近所で火事があったが、誰が住んでいるのか分からないことがあった。なんとかしようと始めたがだめだった。

○委員) 以前は警察の駐在所がそのようなことをやってた。最近、駐在所も統合され、地域に駐在所がなくなっている。

○委員) 50年に1回は必ず地震が起こるそう。鳥取地震からもだいぶ時間経って

る。生ぬるいことを言っていたはだめである。

○委員) 建物の耐震診断を受けて欲しい。

○林副市長) 診断は終わっている。ただ、耐震補強については27年までかかる。

○委員) 中国では学校に対し、安全な場所にしていくという発想がなかったのではないか。

○林副市長) 日本の場合は学校とか公民館とか避難所として使っているの、公共施設の中でも特に大事に建てているし、これからもそういう考えは一緒なので、耐震補強も優先的にしていかなければならないという考えはもともと根本にもっている。

○部会長) 消火栓で使えないものもあるのではないかと。点検する必要があるのでは。

#### ●資料2～4について担当課より説明

○委員) 町内会に、町内会費を払いたくないという理由で入らない人もいます。けどもゴミは捨てる。

○安本室長) 生活する上で、町内会がなぜ必要なのかということを理解していただかなければならない。

○委員) アパートに市報が届かないということがあった。子どもさんがいろんな行事に参加したいと思っても情報が入らないということで、いろんな人に相談したが、町内会に入っていないからだということが分かった。そこで、その町内会の人をお願いして入られたということがあった。

○委員) 市報が要らないという意見もある。

○部会長) それでは市長が来られたので、一言あいさつをお願いしたい。

○竹内市長) 今日は新年度第1回目の会議ということで、各部会を15分程度で回っている。地域コミュニティの充実・強化では、協働のまちづくり元年ということで鳥取市として大きく打ち出していて、自治連合会の方もそういう気持ちで取り組んでいただいている。余談ではあるが、鳥取市の自治会も、昨年6月1日をもって一元化し、9つの各地区が全部統合された。

現在本市では、協働のまちづくり元年をいかに実現するかが大きな課題となっている。今日の部会のテーマが「自治会活動について」ということであるが、実際に鳥取市はかなり多くの支援を自治会にしているように思う。7,000万円以上の自治会活動の補助金を各地区の自治会に出している。その他にも自治連合会に対する補助もしているし、福祉文化会館に部屋を確保したりして、地方自治の非常に重要な部分であるが、住民自治という考え方がだんだんと強化できていると感じている。そうなってくると、自治会に参加していない人と、自治会に参加して、費用も負担して、いろいろと盛り上げておられる方と、地域づくりを進めておられる方との問題が生じる。できるだけいろんな機会を通じて、呼びかけをして入っていただこうとしているところである。負担が大変だという方に対して強制すべきではないかもしれないが、個人的には、何歳以上は敬老で半額にするとか、失業中の方だから半分にするとか、というのでもいいんじゃないかとも思うが、自治会の方ではそのような考えは受け入れられないので、悩んでいるところである。

最近、自治会では、マンション、アパートへの働きかけが強まっている。自治会の方が出かけて行って、マンション業者や、アパート所有者に話をしたり、既に住んで

おられる方に、町内会を作っておきたいとか、そういうことをやっておられるのは、非常にいいことだと思う。

コミュニティを充実強化するということは、人口の高齢化とか、人口の減少とか、そういう中で地域が支え合い、助け合いが充分にできなくなっているんじゃないかと、いう危機感から発しており、特に新市域で人口減少とか、コミュニティの高齢化が進んでいるということを考えると、特に新市域においてよりがんばらなければならないのではと感じている。

具体的には、公民館を単位とした地域コミュニティの拠点作りや、まちづくり協議会の設置促進というようなことを進めなくてはいけない。それから鳥取地域など市街地の部分では、町内会への加入を促進していくというようなことが、大きな課題でもあると思う。例えば、町の中心には、消防団もない。なので、自主防災会が町内会ごとにあって、これが自警団みたいな仕事をしているわけであるが、そのような組織でも大切に育てていく必要がある。防犯、防災、福祉、こういったネットワークが地域の中でしっかり根をはるようにしたいというのが鳥取市の思いである。

これは地域の方の参加なくしてできないので、地域コミュニティづくりの大切なポイントである。皆さんからいろんな意見をいただく中で、1歩でも2歩でも前進できるような提案をいただければ大変ありがたいと思っている。

- 委員) ボランティアで草取りをするついでに、訓練として炊き出しを行ってはどうか。自治会はその際に向こう3軒両隣を確認する。いろんな活動をやっておられるのでそれを集約して、年2回ほど訓練すれば、何かあった時に役立つのではないか。また、そういうことをやっていると参加してみようかなという気にもなってもらえるんじゃないか。
- 委員) 市街地は共働きの多い。唯一の休日は、早く草取りをして、早く終わらせて休みをとりたいたい人が多い。
- 委員) 草取りというのは、ロマンティックでない。一斉清掃に+アルファで、何か組み合わせる必要がある。防災訓練に握り飯とか。昔のコミュニティは、各むらやまちに地域の芸能や盆踊りがあり、老若男女すべて出ていた。何か年1回でも特徴あるイベントを組めば人集めできるんじゃないかと思う。
- 竹内市長) 自治会の加入率のことも、みんな解決する1つの鍵である。
- 委員) 各公民館に1つの特徴を持たせてはどうか。
- 委員) それなりのことをやっておられるが、防災訓練の1つとしてとらえると規模を広げることができる。
- 竹内市長) 出欠確認を伴うものとか。
- 委員) 夏休みのラジオ体操のスタンプも1つのインセンティブであった。
- 竹内市長) 地区公民館にまちづくり協議会(仮称)のを作りつつあるような状況がある中で、地域の防災組織とか自治会組織とか社会福祉協議会、民生委員の組織、体育会の組織、婦人会の組織など、いろんな組織が横に連なって、輪になってやろうとしているわけである。この行事とこの行事と一緒にしようとか。避難訓練と炊き出し、草取りや盆踊りを組み合わせようよというのは非常にいい考えで、そういったことが、年1回ではなく、3回、4回でもやれば、また違ってくるのではないか。出てこない人を強制するというようなことはできないので、イベントを魅力がある内容にす

る必要がある。

- 委員) 行政の縦割りの予算の組み方、つくり方でそのような姿になってしまった感じがする。
- 竹内市長) 行政への依存体質もある。
- 委員) 今までかかわってきた中では、お金が無くなってしまったのでやめるというのが多い。
- 竹内市長) 縦割りの弊害があったのは事実であるので、まちづくり協議会の場ではそういうことがないようにしたい。まちづくり協議会が決めた行事に対して、地区公民館を通じて支援していく制度もつくりたい。
- 委員) 環境の問題では、千代川のセイタカアワダチソウがたくさん自生しているが、いろいろと問題がある。あれが菜の花であったらどんなによいかと思う。菜種油をとれば、バイオ燃料にもなるし、食用にもなる。
- 委員) 「コミュニティ」という名前ですとくと、背筋を伸ばさないといけない。「おつき合い」「支え合い」「助け合い」という言葉をちょっと添えると受け止めるイメージがだいぶ変わってくる。仲良くするために集まりましょうとかした方が来やすい。
- 委員) 今一番気になっているのは、防災問題。どこにどなたが住んでいるのか分からない状態で、大地震がおきれば、いったいどうなるのか。ことがさっさと進むのか非常に心配である。
- 竹内市長) それは私も心配である。要援護者をもっと把握したり、地域での防災活動を盛んにしたい。消防団についても、合併しても数を減らさない。このようなことでがんばってきている。
- 委員) 公民館や体育館に避難民が入りきれぬのか。一般住民が一度、一斉で避難する訓練の必要性を感じる。一斉に避難訓練する日をつくる。
- 竹内市長) どんどん検討していつてもらいたい。会としての提言に入れてはどうか。

●資料 2～4 について担当課より追加説明

- 委員) 自治連で意思決定した際には、末端の区長まで、きちっと情報を流していく必要がある。以前、一番身近な区長が情報を知らなかったということがあった。末端まで情報が行き渡るように、自治連合会の役割としてそのあたりをきちっとしてもらいたいと思う。
- 部会長) 次回も今回の続きで自治会活動について議論したい。
- 事務局 栢谷) 8月までに一度日程調整をさせていただく。

以 上